

学科	助産別科
氏名	竹内 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産学研究演習	1	通年	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>通年を通して行う必須の助産の理論領域の基礎科目である。今年度の学生の約半数は大学卒であり、看護研究に取り組んだ学生も約半数みられた。助産学領域で適用される理論や根拠に基づいた助産実践を実証するための研究方法を解説し、助産学研究論文を検討する能力を養う目標で興味を持たせるよう工夫した。また、助産実践上の問題を明確にし、研究課題として発展させ助産実践に役立てるための基礎的な研究能力を養うよう卒後の研究意欲につながるよう実践的な内容を資料に加えた。一昨年までは、研究計画書作成で終了し継続性がなかったため、昨年より実際に実習でかかわった継続事例による事例研究を最後にまとめ発表する方法へ変更している。受講動機は必須科目である(100%)、資格取得、単位数(21%)であった。講義を前半に行い、後半は文献リスト作成、実習事例からケーススタディーの作成を行った。担当教員を決定し継続した個人ワークとして事例を深めた。統計処理方法等については、外部の専門の講師に継続して依頼した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>最終的な成績の平均値は78(±9.9)点であり、評価は60点～95点とばらつきがあったが、再試対象者はいなかった。事例研究の評価基準により評価した。知識理解45%、思考判断40%、関心・意欲15%で評価した。レポート以外ではプレゼンテーション、授業全体の中での取り組みの関心度を評価した。学生による授業評価においては、到達度自己評価は、平均値3.7～3.9を示し、研究として成果をまとめ、発表したことで達成感をほぼ全員が持っていた。学習量の評価は、相当時間を使って研究のまとめをしているが、予習復習という項目には反映されていない。図書館利用や情報の利用は、ほとんどの学生が図書館や他の大学図書館を利用、インターネット利用等で文献の検索を行う、文献リストを作成していた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 必須の助産の理論領域の基礎科目であり、専門科目の知識理解をもとに実習における対象者を事例として展開していく実践領域まで含めた科目である。達成度評価については、知識理解を重視していたが関心意欲についても評価の必要性があると考え、評価のバランスを今後検討していく。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 学生の到達目標は、助産学領域における研究的視野を養うために必要な研究の基礎的内容・方法を理解し、文献のクリティーク、自己の継続受持ち妊産褥婦のケアについて研究的に取り組み、文献を基に考察を深め、事例研究として学内において発表できることである。知識理解の平均値35点/45点満点、思考判断29.4/40点満点、関心意欲14点/15点満点であった。最終的な成績の平均値は78(±9.9)点であり内容的には妥当であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方 1年間のなかで講義演習は実習前の前期に集中する。したがって、講義・演習と同時進行しながらこの科目もすすんでいく。基礎実習・後期の実習が終了した時点から実習で受け持った事例を展開していくため学生に余裕はなく、複数課題をもったまま進んでいく。学生の進行状況をみながら工夫していく必要がある。学生は文献検索や文献リスト作成等実施することで卒後の助産研究に活かすことができたと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

実際の事例からのケーススタディのまとめを行うことで、今後の研究に積極的に取り組む基礎的知識や思考判断がほほできたと考える。助産学領域における研究的視野を養うために必要な研究の基礎的内容・方法を理解し、文献のクリティーク、自己の継続受持ち妊産褥婦のケアについて研究的に取り組み、文献を基に考察を深め、事例研究として発表できた。達成度評価では、DPIにおける評価については、今後も検討していく。基礎科目である助産学研究演習は、事例を深く掘り下げたため助産の実践領域である専門科目と実習の学びを連動させ、効果的であったと評価できる。学生の学修時間の確保の工夫が課題である。

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と生命倫理	1	通年	必修		15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>通年を通して行う必須の助産の理論領域の基礎科目である。キリスト教的人間観と性と生殖に関する倫理問題のアセスメントを行うために必要な知識について理解を深める。学習準備においては、チャペルで毎週多くのキリスト教精神について学ぶ機会をもつため、宗教的な捉え方と生命倫理としての性と生殖におけるカウンセリングの重要性や助産師の役割を学ぶ重要な科目として位置付けられる。受講動機は必須科目である(100%)、資格取得(25%)、単位数・関心がある(各21%)であった。学生はチャペル参加を楽しみにし、「いのち」に向き合う重要な時間としてとらえていた。チャペルでの学びが活かされてキリスト教と生命倫理につながっていくような内容の工夫を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された		達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は87.86(±3.6)点であり、評価は78点～92点と高かった。知識理解では、平均値41点/45点満点、関心・意欲では、平均値47%/55点満点であった。レポートで80%評価し「倫理的ジレンマ」についてのディスカッションで20%(知識理解5%・関心意欲15%)とした。実習を通しての倫理的課題について考察し、倫理カンファレンスの持ち方や考え方を学ぶことができた。学生による授業評価においては、到達度自己評価は、平均値3.3～3.7を示し、専門分野のさまざまな課題を検討する力を得た、事象を理解する視点や考え方を得たでは、3.7点と高い自己評価であった。シラバスの活用はしていたが、図書館利用や情報の利用は少なかったがレポート作成のための図書館やインターネット利用等を行っていた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 必須の助産の理論領域の基礎科目であり、助産師としての能力を養う基礎的科目である。関心意欲について最重視し、生殖医療等については知識理解も評価した。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の到達目標は、人間観や生殖医療や性と生殖におけるカウンセリングの重要性、生命倫理の考え方について標準的レベルには到達したと考える。しかし、生命倫理について、母子への支援や助産師の役割が理解できるまでには及んでいない。最終的な成績の平均値は87.86(±3.6)点であり内容的には妥当であったと考える。 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方 通年の科目であり、チャペル授業を前期から継続する中で、基礎実習を終えた後の科目である。実習を通して感じたキリスト教的人間観や講義・実習で学んだ倫理問題、全実習を通して学んだ倫理的感性の醸成や助産師の役割などを最終にディスカッションによる共有を行いことで達成することができたと考ええる。達成目標をより効果的に行うために、授業計画をさらに検討していく。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

、「いのち」に向き合う重要な科目であり、生命倫理についてより深く学ぶために授業計画を見直していく。次年度は、課題を設定し個人ワークの時間を確保し、ディスカッションで共有して生命倫理について深く考える機会を検討したい。生殖医療に関して外部の専門医師による講義が含まれるが、他科目(女性の健康支援)の不妊治療という特別な支援を要する健康問題と助産師の役割、と連動して生殖医療に関する知識や関心をより高める授業計画を検討する。

学科	助産別科
氏名	竹内 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)	1	前期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は他の助産診断・ケア学同様、臨地実習を前に短期間で集中して開講される。そのため、予め看護基礎教育(特に母性看護学)における知識や技術の見直しが必要であることから開講前に母性看護の知識や技術の復習として周産期のまとめ学習や技術試験を行い開講にそなえた。</p> <p>さらに、母性看護の臨床経験が乏しい学生が多いため、褥婦や新生児をイメージしたうえで母子一体の看護の根拠や方法を理解することを意図して、身体的特徴や生理についての理解を視覚的に深めることを目的にDVD教材の活用、模型を使用した技術演習を意図的に取り入れた。そして、産褥期および健康教育との関連性を考慮して、知識や技術の積みかさねを意図して、時間割を工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>評価は、技術試験・レポート・課題などの提出や自己学習を40%、期末試験60%で実施した。最終的な成績の平均値は80点であった。再試験対象者は0名であった。全員が標準的レベルに達し、13名が理想的レベルに達した。</p> <p>一方、学生アンケートから、目標の達成や的確な判断力を身につけたと実感できていたこと、予習復習の時間も半数以上が確保できていた。このことから他の科目の課題が重なっていたものの、産褥期同様、看護基礎教育の臨床実習で経験しており、妊娠期や分娩期に比べると知識理解力や思考判断力はある程度身につけていたため自己の課題が明確であり、本科目で得られた知識を更に深めるための時間を効果的に利用できていたのではないと思われる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では全員が目標や課題や判断する「そうだと思う」と回答していた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

短期間で集中的に行われる講義であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めてきたが、他の科目同様に、学生アンケートの自由記載には「時間がなかった」、「他教科の課題で精一杯だった」という意見が聞かれていた。それでも、半数以上の学生が予習や復習を行っていた。

今後も、学生個々の理解度を踏まえ、実習時期や講義内容も考慮して学生にできるだけ負担なく効果的な講義を提供できるよう検討していく必要があると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

到達度自己評価では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。さらに、学生全員が目標に達することができていた。短期間で集中的に行われる講義であったが、学生全員が課題に取り組み知識理解力が定着し広い視野で思考判断が可能となるように、更なる工夫をしていきたい。

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学VI(健康教育演習)	1	通年	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・受講動機で選択率が高かった項目は、「必須科目である」が100%、「資格取得に必要である」が27.3%であり、学生全員が受講している。本科目は助産の実践領域の専門科目であり、資格取得に必要な科目でもあり、授業評価においてすべてのDP項目が該当することから、総合的な学習が求められる科目だと言える。</p> <p>・本科目の授業の運営方法はほとんどが演習であり、健康教育を行う際の企画書・指導案作成においては、担当教員を決めマンツーマンの形をとり学生と関わった。また、健康教育の企画書・指導案は実習で活用するものもあり、必要な内容を網羅して実習の準備ができるよう計画した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は89点であり、再試験対象者は0名であった。理想レベルに達した学生は全体の53%であった。</p> <p>・DP別にみると、「知識・理解」、「思考・判断」、「意欲・関心」、「態度」、「技能・表現」すべてにおいて80%以上であった。ただ、学生の達成度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」や「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」について平均点が最も低く、中央値は3であった。科目全体の目標の提示はしているものの、達成度自己評価が低いことより、評価方法であるレポートの内容や発表について、目標が達成されているかの視点で学生にアドバイスする必要が有ると考える。</p> <p>また、同時に平均点が89点と高いことより、次年度は評価方法や評価基準の検討も必要かと思われる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学習到達度の自己評価の項目では「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」や「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」など「意欲・関心」、「技術・表現」に関する平均値(4)が高い。反面、自己の目標達成に関する項目が低いことより、目標達成に関する学生へのアドバイス(評価を含む)が必要だと考える。</p> <p>③まとめ 以上より、達成度自己評価に関して課題が残るが、内容に関しては妥当であると考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

・「図書館の図書・雑誌・学術データベース」の利用について、半分の学生が利用していなかった。健康教育の企画書や指導案作成・媒体作成にあたっては、知識や根拠が必要だが、テキストだけでなく、雑誌などの文献(新しい知識や現状を把握するため)も利用するよう文献の提示が必要かと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。点数的には全体的に達成できたと言えるものの、学生の目標達成度は低かったという課題がある。すべてのDPを網羅している科目であり、総合的な学習が必要ではあるが、学習する過程において、学生が目標を達成したか否かでの視点でのアドバイス・支援が必要だと考える。また同時に、平均点が高かったことに関して、今後評価方法や評価基準が妥当だったか否かについて検討する必要がある。

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習)	1	通年	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>通年を通して行う必須の助産の実践領域の専門科目である。過去に実習に入ったあとで看護過程の展開ができない学生がおり、実習中に再度振り返りを行ったことがある。、「総合看護学」の内容を検討変更し、看護過程の展開ができる基礎レベルを確認した後で助産過程演習を組み込むようにした。受講動機は必須科目である(100%)、資格取得(28%)、関心がある(21%)単位数確保(14%)であった。理論の講義を行い、作成した事例から助産過程の展開を、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に分け展開していった。助産診断を理解するために個別指導と共有の時間をつくることで知識を深めるようにした。各期ごとに1～2名が発表し全体で江スカッションを行い共有した。後半は基礎実習終了後にも受持ち事例からの学びを全学生がまとめ発表し共有することで後期の実習に向け学習を深めることとした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は84(±8.5)点であり、評価は69点～95点とばらつきがあったが、再試対象者はいなかった。レポート評価基準及び発表、その他により評価した。知識理解15%、思考判断65%、関心・意欲10%態度10%で評価した。レポート以外ではプレゼンテーション、授業全体の中での取り組みの関心度・態度を評価した。</p> <p>学生による授業評価においては、到達度自己評価は、平均値3.5～3.7を示し10項目で概ね3.7が多かった。コミュニケーションや表現力については3.5と低かった。研究として成果をまとめ、発表したことで達成感をほぼ全員がもっていた。学習量の評価では、事例の情報収集・助産診断・アセスメント・ケア計画、実習後の事例については実践・評価まで含んだまとめで相当量の時間を使っているが予習復習という項目にはあまり反映されていない。図書館利用や情報の利用は、半数の学生が図書館や情報利用等を行っていた。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 必須の助産の実践領域の専門科目であり、基礎科目・支援科目の知識理解をもとに事例を展開していく科目である。達成度評価については、思考判断を重視し、知識理解、関心意欲、態度についても評価した。この科目は助産師となるための助産実践力能力を身に付ける重要な科目であり、評価についても再度検討する必要がある。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 知識理解の平均値10.8点/15点満点、思考判断55.8/65点満点、関心意欲8.4点/10点満点、態度8.6点/10点満点であった。最終的な成績の平均値は83.5(±8.5)点であり、学生の到達目標は、助産過程のプロセスを理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児の事例を通して対象をアセスメントし、ケア立案までの助産過程展開を行った。事例をまとめ、討議し、評価することができた。ペーパーシミュレーションで助産過程の展開を行い、実習で実際の対象者を通して実際の一連の過程を理解することで達成度も高かったと言える。内容的には妥当であったと考える。今後も事例をより洗練されたものに工夫する必要がある。</p> <p>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方 「総合看護学」の内容を変更したことで助産過程の導入がしやすくなり、学生からの要望や苦情等はほとんどなかった。授業の質評価では、5項目すべてにおいてマイナス評価はなかった。平均値は「説明が理解しやすかった」は3.6、「提出物の評価基準は明らかであった」3.9、それ以外は3.8であった。情報利用については、シラバスに沿って計画され参考した学生は87%であった。この科目において図書館等を利用した学生は少なく、教科書等配布物による学習を行っていた。この科目で使う記録物と実際に実習で使う記録物を揃え学生が混乱したりしないよう工夫が必要である。また、他の演習でも同一の事例を継続して使うことでより一貫した考え方やスムーズな導入になるよう工夫していく。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

必須の助産の実践領域の専門科目であり、実習に直結する科目であるため、学生にわかりやすく、丁寧に教授することが重要である。学生のレディネスや知識度を早い時期に把握し、授業に反映していくことを継続していきたい。事例の情報収集・助産診断・アセスメント・ケア計画、実習後の事例については実践・評価まで含んだまとめで相当量の時間を使っているため科目時間内の時間の確保に努めているが、十分な時間数が取れず課題として残る。また、この科目で使った記録物を他の演習や実習でどのように活用するかは今後検討していく。
以上から、学生の看護過程展開についての知識理解度の早期の把握を行う。課題の取り組みの時間確保を工夫する。継続して活用できる記録物等の改善を次年度の課題とする。

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産管理学	1	通年	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>通年を通して行う必須の助産実践領域における専門科目2単位の科目である。助産管理の基礎的概念や助産業務の法的範囲等、実習や卒後の業務を行う上で重要な科目であるため、個々の学生の理解度を確認しながら進めていった。基礎実習を挟んでの科目であるため、病院・助産所等の業務管理・運営に関して実習で学んだ内容を各ガイドラインを用いて再度確認しながら進めるよう計画した。受講動機は必須科目である(100%)、資格取得、単位数(18%)、関心のある内容(9%)であった。知識理解を80%、関心意欲20%で評価する。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された		達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>基礎実習終了後に実習で学んだ助産管理の実際と課題について学生が積極的にプレゼンテーションを行い、助産管理に関する知識を深め、関心意欲も高まるよう努めた。8月、10月～12月に行う施設の管理実習でさらに病院や助産院の特徴や管理方法を学ばせ最後に「実践的な看護管理」について講義、事例を用いたグループ学習を通して助産師の役割を考察した。</p> <p>最終的な成績の平均値は75(±5.4)点であり、評価は66点～90点とばらつきがあったが、再試対象者はいなかった。</p> <p>知識理解平均値55点/80点満点、関心・意欲平均値19点/20点満点であった。試験で知識理解60%、レポートで知識理解20%、関心意欲10%はプレゼンテーションで評価した。</p> <p>学習量は、1/3の学生が予習復習を行っていたが、授業の課題以外には11名が取り組んでいなかった。他の重複課題があり、余裕がなかったと考える。時間内に課題について自己学習やGワークする時間を工夫する必要がある。</p> <p>学習のための情報利用ではシラバスを活用し、半数が図書館利用していた。</p> <p>学生による授業評価においては、到達度自己評価は、平均値3.6～3.8を示し、10項目すべてにおいて全員が「そうだと思う」と評価した。助産管理に関する興味が高く、助産業務を実践するための専門的知識修得に積極的であった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 必須の助産の実践領域の専門科目であり、社会における母子を取り巻く現状及び助産師の社会的責務と役割を学び、助産師として自立して母子とその家族へ安全・安心の助産ケアを提供する能力を育成するための科目である。専門科目の知識理解をもとに実習における助産管理の実際を理解できるよう構成した。成績については平均値は75(±5.4)点と一定の成績を収めているが、授業計画を再度検討してより知識理解度を上げていく。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 達成度評価については、知識理解を重視し80%とし、関心意欲については20%とした。達成目標から知識理解に対して到達度評価に重点を置くことが次年度再度検討する。</p> <p>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

助産管理の基礎概念と、管理理論について講義し、助産管理と法規、様々な管理システム助産業務管理を説明した。そのあと助産管理に関するガイドラインの内容や事例から助産管理の学びを深められるよう工夫した。学生の授業の質評価では、5項目すべてに対して全員が「そう思う」と評価していた。学習量の評価では、2/3以上が予習・復習を行っていた。学修のための情報収集は、15名中2名がシラバスを参考にし、授業計画を立てていた。図書館やインターネットは約半数が利用していた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成度評価については、関心意欲については達成できたが、知識理解については課題が残った。到達度評価を再度検討する。また、講義以外に演習を取り入れ事例を用いてガイドラインや基準を深く考察できるよう授業計画も検討する。時間内に課題に取り組めるよう自己学習やGワークする時間を工夫することで、学生の学びにゆとりをもって取り組めるよう工夫したい。助産管理について講義・演習・実習を通して助産師としての実践能力の基盤となるため内容や方法を見直し、改善していく。

学科	助産別科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域母子保健	1	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は、「必修科目である」92.3%、「資格取得に必要である」23.1%であり、「関心のある内容である」は15.4%と少ない割合となっている。本講義は助産師として、助産師として地域で母子保健を推進するうえで必要な母子保健行政の仕組みや制度、社会資源、保健医療福祉関係職種との連携等について、最近の動向を踏まえ、グローバル社会における今後の活動を展望する講義内容として計画している。受講動機は、必修であるため多くの学生が選択しているが、この講義内容を理解し、地域母子保健における意欲関心を深めていくことを期待したい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		やや達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、85.8点であり、再試対象者はいなかった。標準的レベルに達した学生が100%であり、内、理想的レベルに達した学生は、86.7%であった。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては89.8%、意欲関心に関しては73%、態度に関しては100%であった。助産師としての地域母子保健を推進するうえでの意義については、全員の学生が十分理解しており、授業にも積極的に参加する状況がみられた。</p> <p>学生の到達度自己評価においては、全項目において平均値が一定の値を示している。特に「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」の項目において、「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」を85%以上の学生が選択している。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP・CPカリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性</p> <p>本科目は、知識理解、意欲関心、態度に位置付けられた科目である。知識理解に関しては9割、意欲関心に関しては7割、態度に関しては10割の学生が達成していることから内容的には妥当であると考えられる。しかし、意欲関心に関してが他項目から少し低い状況がみられるので検討する必要がある。地域母子保健の内容が母子保健行政や仕組みの理解だけに終わることが内容に、今後の課題及び展望を含めて、学生の意欲関心を高めることに努めたいと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価において、予習復習の時間が半数の学生の取り組みとなっている。本講義は3人の教員による展開となっているため、教員間における授業展開についても情報交換を綿密に実施し、授業課題の提供について、学生の学習行動につながる展開を検討したいと考える。

授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」のいずれの項目においてもそうでないと思う等の否定的意見はみられなかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。
さらに授業内容を精選し、受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。